

株 主 の 皆 様 へ



第106期 中間報告書

2020年1月1日 ▶ 2020年6月30日

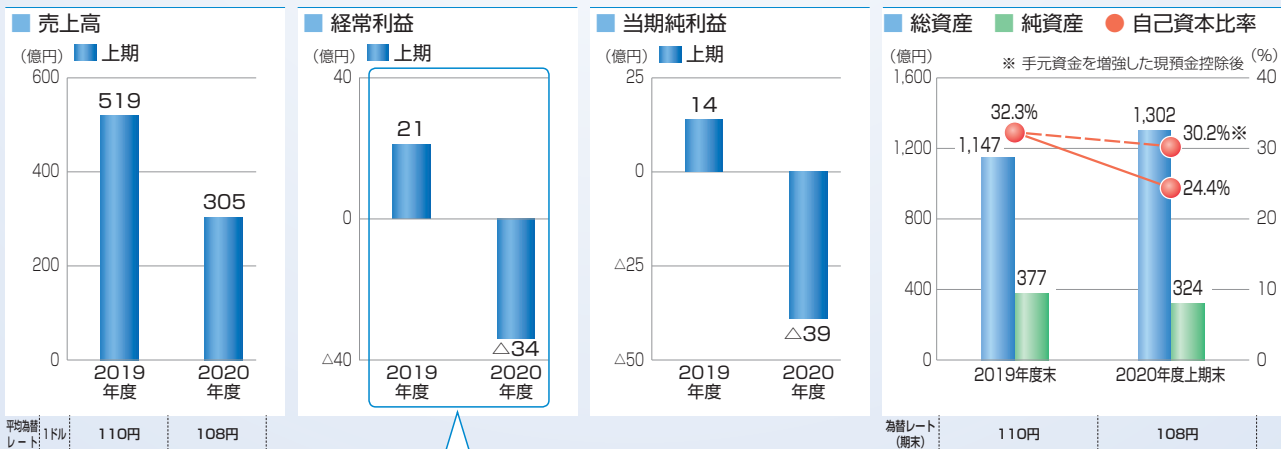
JUKI 株式会社

証券コード：6440

業績のポイント

売上高 305億円 (前年同期比 214億円の減少)
 経常利益 △34億円 (前年同期比 55億円の減少)
 当期純利益 △39億円 (前年同期比 53億円の減少)

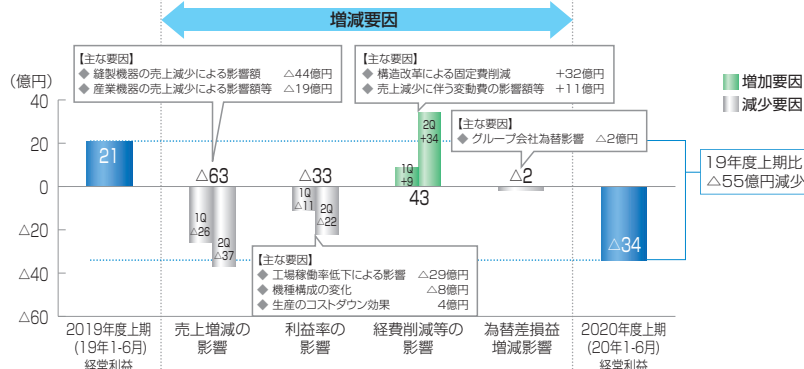
売上高は、特にお客様である全国各地域の縫製工場で事業を停止し、操業度が低い企業があるなど引き続き設備投資需要は低水準で推移していることから、売上が減少し、前年比△41.2%の減収。利益面は、期初に掲げた構造改革を更に深掘りし、本社や国内外のグループ工場の一斉操業停止を含む大幅な生産調整、管理（間接）部門の一時帰休や新たな勤務フォーメーションの導入等による収益改善を図りましたが、売上減少の影響などにより、営業利益、経常利益共に前年比で大幅な減益。



平均株価	1ドル
レート	110円
	108円

為替レート (期末)	110円
	108円

2020年度上期 前年同期比 経常利益増減要因



人事コスト改革 △9億円

- ・人事処遇制度の見直し
- ・本社の一時帰休
- ・新たな勤務フォーメーションの導入

生産コスト改革 △12億円

- ・国内外のグループ工場の一斉操業停止を含む大幅な生産調整
- ・工場スマート化の効果刈り取り

販売コスト改革 △11億円

- ・グループ会社の経費削減 (処遇の見直し、一時帰休等)

コスト構造改革 △32億円

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第106期中間報告書(2020年1月1日から2020年6月30日まで)のお届けにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当期における事業環境は、新型コロナウイルスの感染拡大により世界的に移動が制限され、また一部の国・地域でロックダウンが拡大する中、多くの地域で企業の経済活動が停滞し、消費需要が冷え込む状況が続いており、世界経済は更に低迷の度合いを深めております。

当社を取り巻く環境も、特にお客様である各国各地域の縫製工場で事業を停止し、操業度が低い企業があるなど引き続き設備投資需要は低水準で推移しております。

当社は2020年から3か年の中期経営計画をスタートさせ、そのビジョン「お客様とJUKIが製品・サービスを通じて企業価値を向上できる“モノ・コト”づくり企業」の下、“5つの変革※”を軸とした構造改革、すなわち ①管理間接業務のスリム化などによるコスト構造改革、②高収益分野の営業力強化などの事業領域拡大による付加価値の極大化、③ミドルマーケット開拓強化などのボーダレスによる顧客基盤強化に取り組んでまいりました。

※ 5つの変革=①成長力のある市場・お客様の開拓、②収益力をアップする事業領域の拡大、③イノベティブな技術領域の拡大、④経営の5S(Simple, Slim, Speedy, Seamless, Smart)を軸とした生産体制及び管理(間接)業務体制の構築、⑤“持続可能な”経営の実践

同時に上記の事業環境に対応するため中期経営計画で掲げた構造改革を更に深掘りし、本社や国内外のグループ工場の一斉操業停止を含む大幅な生産調整、管理(間接)部門の一時帰休や新たな勤務フォーメーションの導入、設備投資計画の見直し等により、上期に前年同期比約32億円の固定費削減を進め、収益改善を図ってまいりました。また、役員の月額報酬につきましては、更にカット率を拡大し7月より5~30%の減額を実施し、上期賞与につきましては自主返上しております。

その結果、売上高は304億9千6百万円(前年同期比41.2%減)、利益面につきましては、営業損益は34億6千8百万円の損失(前年同期は25億9千5百万円の利益)、経常損益は34億4千2百万円の損失(前年同期は21億7百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損益は39億2百万円の損失(前年同期は14億3千6百万円の利益)となりました。

下期も引き続き、Withコロナの現状を踏まえ、更なる人事制度改革等により前年同期比約20億円の固定費削減を積み上げるとともに、Afterコロナを展望して専門部署の組織化による業務オペレーションの見直し、RPA導入などによる高効率の経営体制を構築してまいります。同時に経済の復興に向かう各国各地域におけるお客様の経営課題解決のために、ソリューション営業を一層強化し既存事業の強化及び新規事業創出・事業領域拡大による付加価値の増強に一層努めてまいります。

なお、2020年12月期の通期連結業績予想及び配当につきましては、現時点では新型コロナウイルス感染拡大の収束時期の見通しが立っておらず未定のままとさせていただきます、業績予想の算定が出来次第、改めて公表させていただきます。

株主の皆様におかれましては、一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役

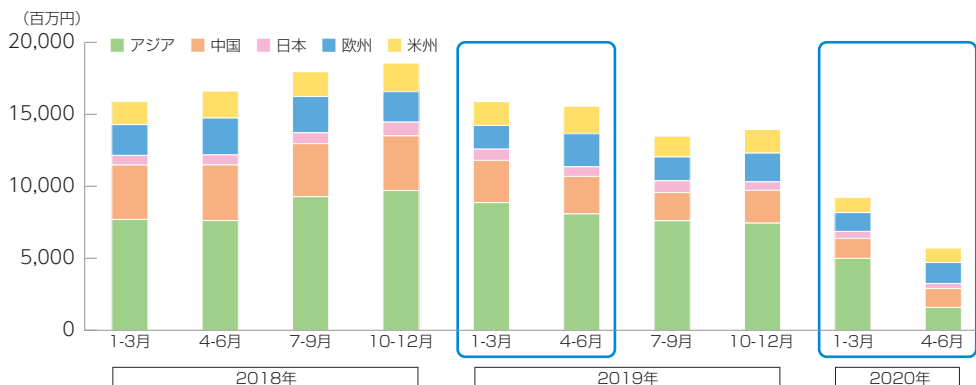
清原 晃

縫製機器&システム事業 (工業用マシン・家庭用マシン)

工業用マシンは、アジアを中心とした各市場で売上が落ち込み、前年同期比△53%減少。

家庭用マシンは、前年同期比25%増加。

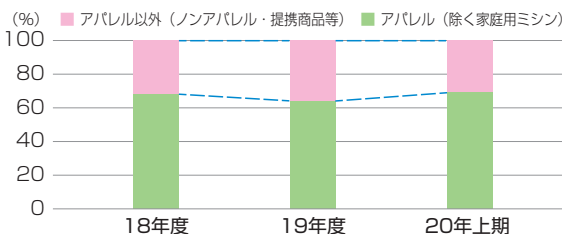
○ 工業用マシンの地域別売上高推移



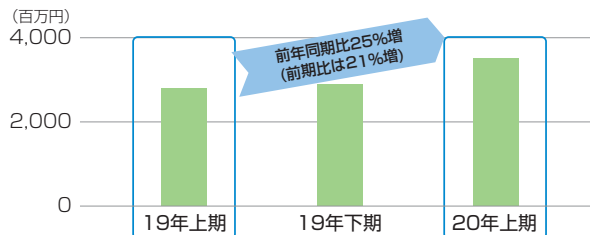
● 工業用マシンの売上高：前年同期比較 (単位：億円)

	2019年 (1-6月)	2020年 (1-6月)	増減額	(増減率)
中国	55	27	△28	△51%
アジア	169	66	△104	△61%
中国+アジア	225	93	△132	△59%
日本	14	8	△6	△42%
欧州	39	28	△12	△30%
米州	36	20	△15	△43%
合計	314	149	△165	△53%

● アパレル・アパレル以外の売上高比率推移(除く家庭用マシン)



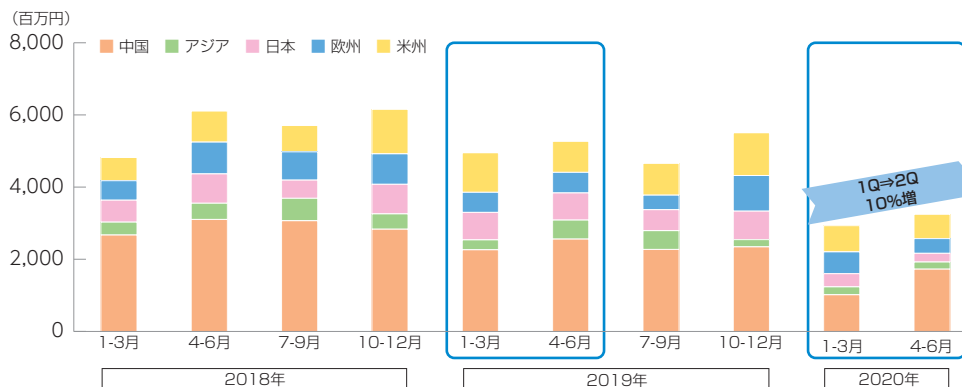
● 家庭用マシンの売上推移



産業機器&システム事業（産業装置、グループ事業、カスタマービジネス）

産業装置は、第2四半期の売上は第1四半期比10%増加したものの、前年同期比では△40%の減少。（パーツ含む）

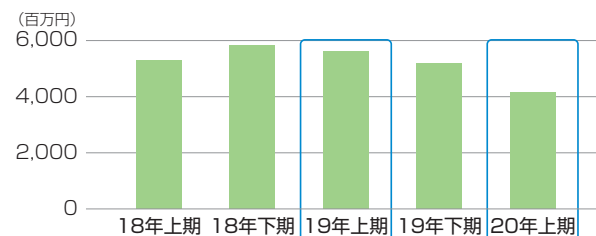
○ 産業装置の地域別売上高推移（含むパーツ・サービス）



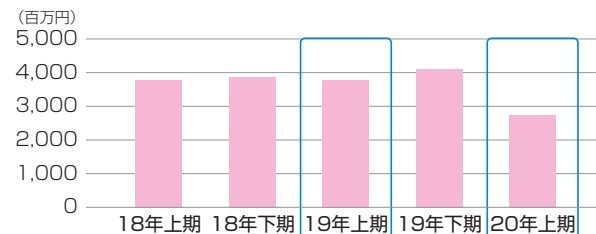
● 産業装置の売上高：前年同期比較（単位：億円）

	2019年 (1-6月)	2020年 (1-6月)	増減額	(増減率)
中国	48	28	△21	△43%
アジア	8	4	△4	△48%
中国+アジア	56	32	△25	△44%
日本	15	6	△9	△60%
欧州	11	10	△1	△10%
米州	20	14	△6	△28%
合計	102	62	△40	△40%

● グループ事業の売上推移



● パーツ事業の売上推移



新型コロナウイルスの治療薬や予防ワクチンが実用化され、感染を完全克服するまでは、
「命を守ること」と「経済を復興すること」の両立が大きな試練

事業環境

経済の復興：

- ・ウイルスと共存しながらの経済の立て直しが進む
 中国、欧米、日本、東南アジアは回復に向かう一方で、南アジア、アフリカ等の地域は停滞が続く見込み
- ・安定供給維持に向けた企業のサプライチェーン見直し・生産地移管が進む
- ・様々な製品・サービスに、AI・5G・IoT等の先端技術活用が拡大

社会的要請

新しい生活様式への対応：

- ・働き方改革の推進(仕事のデジタル化、リモートワーク)、ソーシャルディスタンスの推進

SDGs(持続可能な社会の実現)への取り組み：

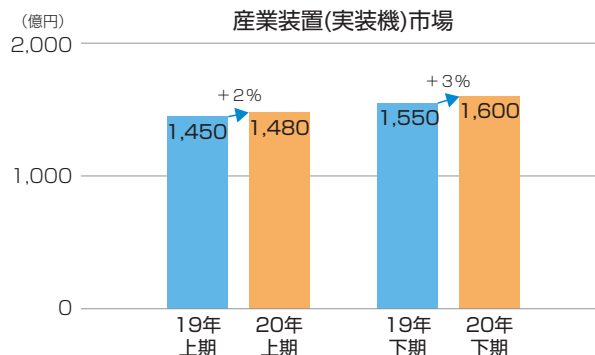
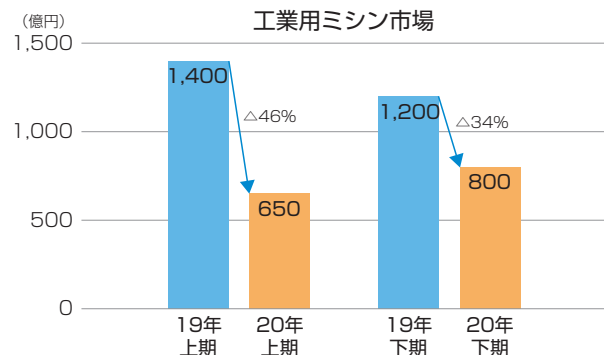
- ・省資源化・廃棄物削減の取り組みへの対応
- ・コンプライアンス遵守、コーポレートガバナンス強化

今後、Withコロナ、Afterコロナにおけるニューノーマル(新しい生活様式)が定着し、
 新しい産業が生まれる。その中に新たなビジネスチャンスあり!!

2020年度下期 市場予想(主力事業)

工業用マシンは、アパレル需要の回復が遅く、前年比30~40%程度減の市場縮小。

産業装置は、中国での5G関連の需要等により、前年比3%程度増の市場拡大。



Withコロナの環境下でJUKIが取り組むべき4つの重点方針

下期重点方針

① 健全な事業所を堅持するための、
JUKIニュープリンシプル(行動指針)の徹底と新しい勤務体制への転換

② コスト構造改革による経費の岩盤水準の更なる引き下げ

③ 既存事業の強化及び新規事業創出・事業領域拡大による付加価値の増強

④ Afterコロナ社会を展望した、新しい経営体制の構築*

※専門部署の組織化による業務オペレーションの見直し、RPA導入などによる高効率な業務運営体制の構築

下期収益
改善のための
最重要課題

上期のコスト水準を更に引き下げるため、追加施策を実施し、前年比で約△27億円の経費削減を行う

人事コスト改革
△4億円

- ・本社の一時帰休（継続）
- ・新たな勤務フォーメーションの制度化（追加）
- ・本社管理間接機能のスリム化（追加）

生産コスト改革
△9億円

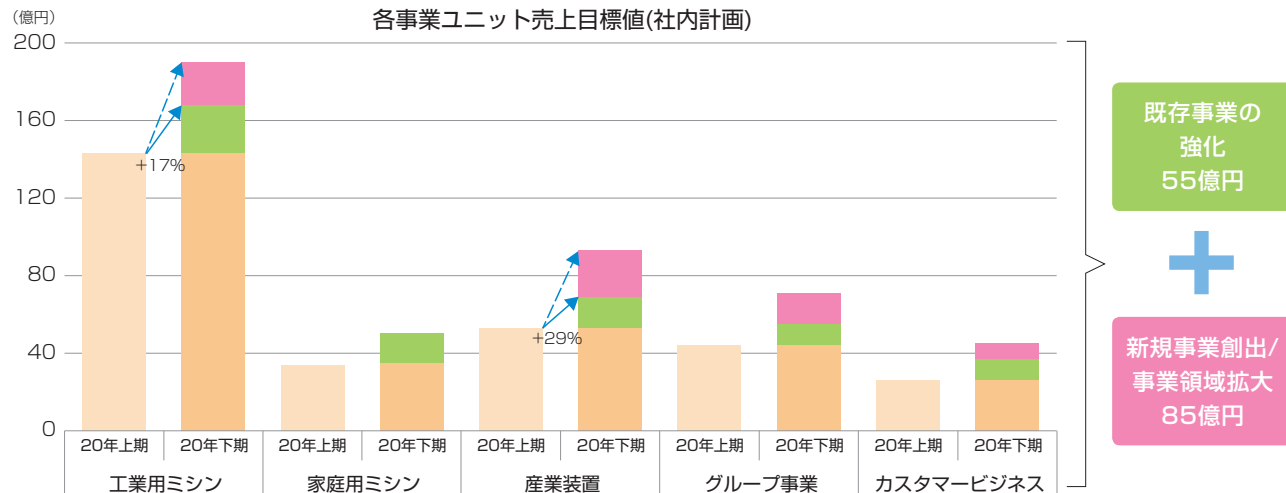
- ・国内外のグループ工場の一斉操業停止を含む生産調整（継続）
- ・工場スマート化の効果刈り取り（継続）
- ・工場製造規模の適正化（追加）

販売コスト改革
△14億円

- ・グループ会社の経費削減（継続）
- ・販社間接機能のスリム化（追加）

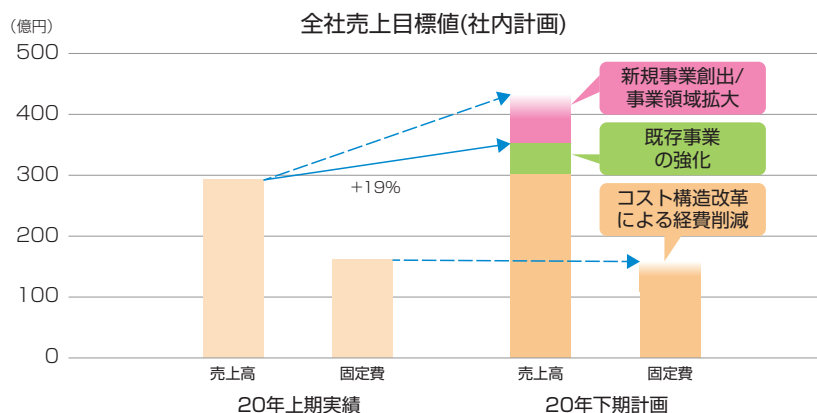
コスト構造改革
△27億円

既存事業の強化に加え、新規事業創出・事業領域拡大による付加価値の増強

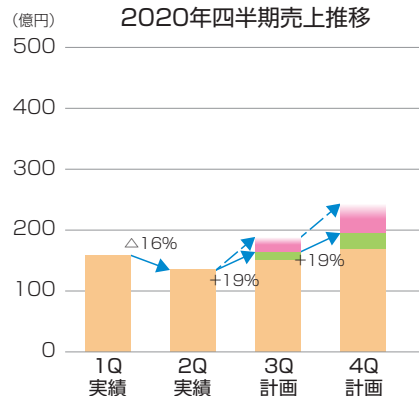


※ 連結消去前
※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

- ・「コスト構造改革による経費削減」+「既存事業の強化」+「新規事業創出・事業領域拡大」による業績回復を目指す
- ・しかしながら新型コロナウイルス収束は未だ不透明であり、「業績予想は未定」



※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート



※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

1. 工業用ミシンのビジョンと基本方針

ビジョン

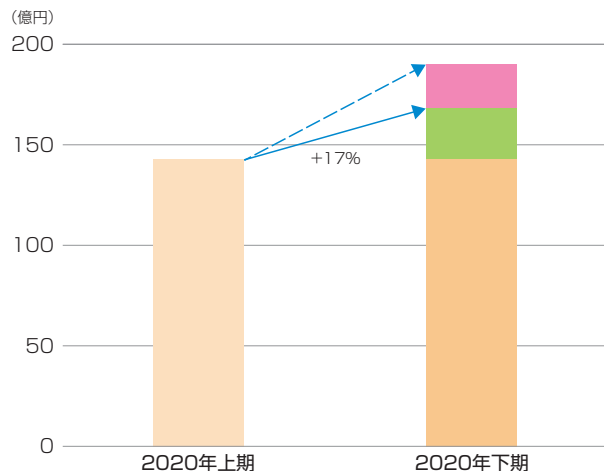
JUKI Smart Solutionsのもと、革新的技術とシステム提案により
お客様の工場スマート化に貢献

基本方針

- ・新型コロナウイルス対策向けの新たなラインソリューションを展開
- ・ミドル顧客の開拓とハイエンドへの成長支援による将来の顧客基盤を構築

2. 2020年度下期目標値と事業領域拡大・新規事業創出

2020年度下期目標値



新規事業創出

マスク縫製向けのラインソリューション拡大



新規商材を含んだ新しい商品ラインナップ

※ 連結消去前
※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

1. 家庭用ミシンのビジョンと基本方針

ビジョン

趣味力の高いお客様（Home Sewer）と新たな楽しみの創造

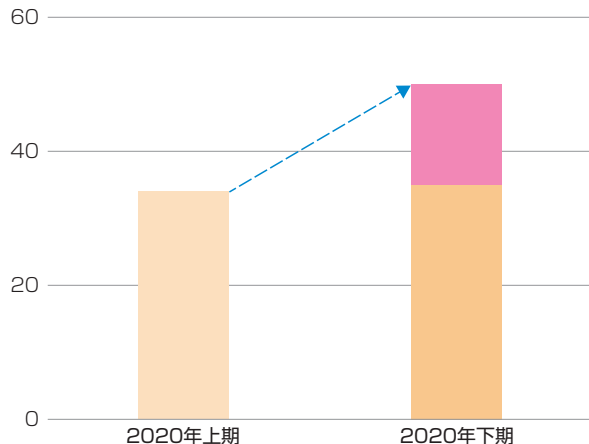
基本方針

強みである高級家庭用・小型ロック・職業用・キルトを中心に事業を拡大

2. 2020年度下期目標値と事業領域拡大・新規事業創出

2020年度下期目標値

(億円)



※ 連結消去前
※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

事業領域拡大

職業用ミシン プラチナムモデルの展開による販売拡大



1. 産業装置のビジョンと基本方針

ビジョン

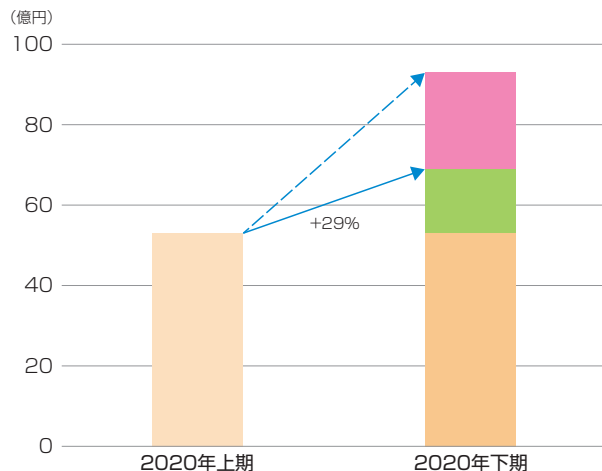
得意分野への集中と自動化・省人化ソリューションで、顧客にとってなくてはならない事業パートナーへ

基本方針

非マウンタ領域でのソリューション拡大とマウンタ領域でのラインソリューション拡充により事業基盤を拡大

2. 2020年度下期目標値と事業領域拡大・新規事業創出

2020年度下期目標値



※ 連結消去前
 ※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

事業領域拡大

MI+ロボット、検査・計測、自動倉庫での領域拡大

MI+ロボット



検査・計測



自動倉庫



1. グループ事業のビジョンと基本方針

ビジョン

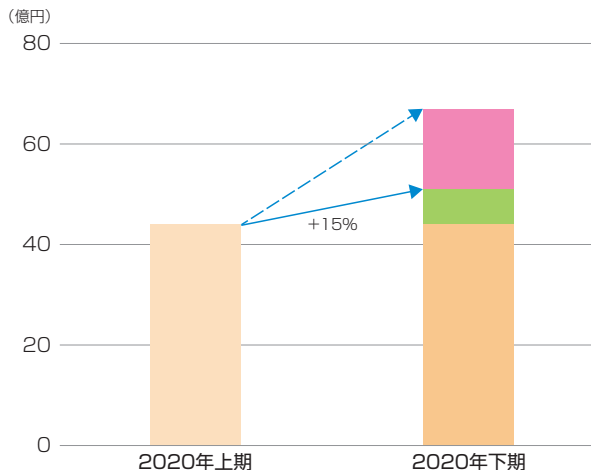
JUKIグループの経営資源（人材、工場設備、ネットワーク）を活かし、
JUKI第三の柱へ

基本方針

- ・企画・開発、設計、組立受託、エンジニアリング拡大による事業領域の拡大
- ・新型コロナウイルス対策関連分野の新規事業創出

2. 2020年度下期目標値と事業領域拡大・新規事業創出

2020年度下期目標値



※ 連結消去前
※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レート

事業領域拡大

お客様工場における製造の自動化、
ライン構築拡大(エンジニアリング)



工程の見える化／工程のロボット化

1. カスタマービジネスのビジョンと基本方針

ビジョン

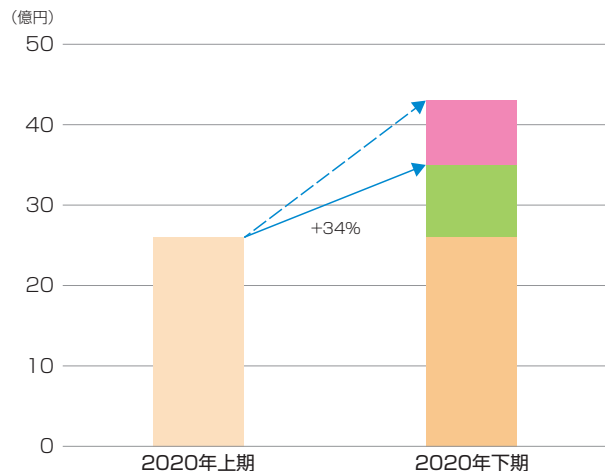
今日頼んだものが、明日必ず手に入るJUKI部品

基本方針

縫製、産装の垣根を越えて『モノ』売りから『コト』売りへ
～付加価値拡大にて顧客囲い込み加速～

2. 2020年度下期目標値と事業領域拡大・新規事業創出

2020年度下期目標値



※ 連結消去前
※ グラフ中 実績・計画共、社内計画レポート

新規事業創出

リモートサポート分野の拡大



点検サポートアプリの展開

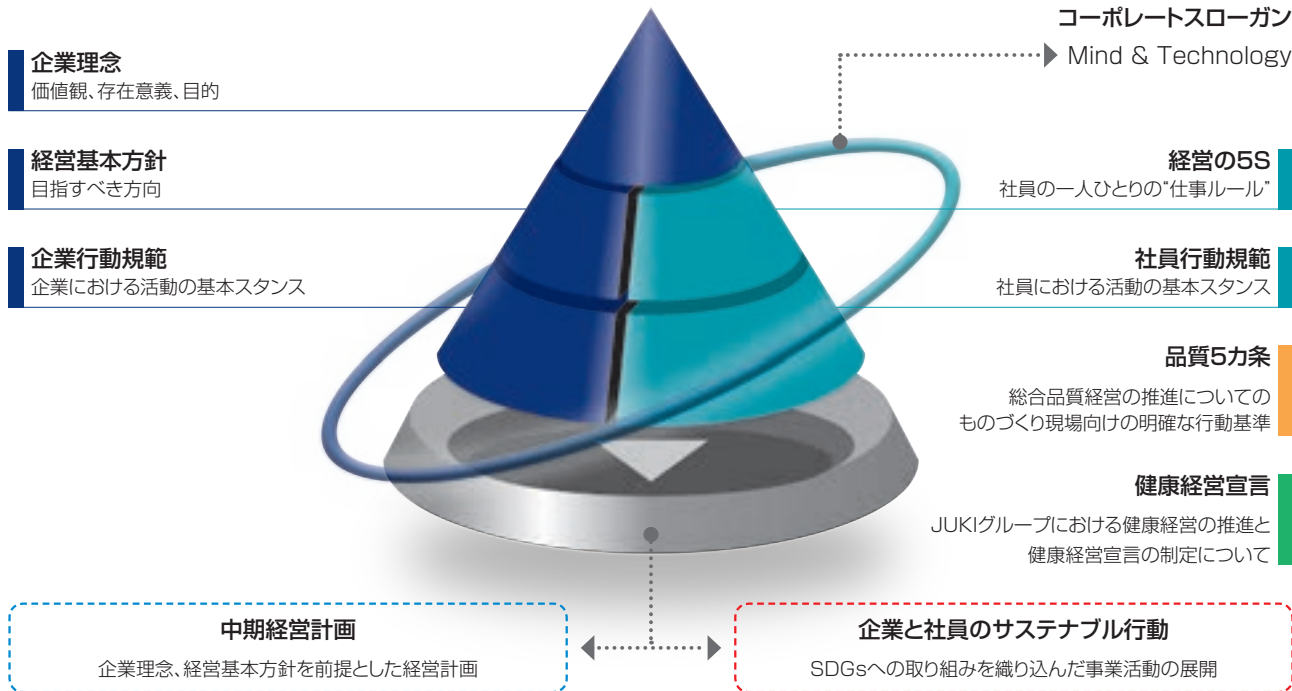


オペレータ向けeラーニングコンテンツの提供

JUKIは、持続可能な社会実現に向けてこれまでも事業に取り組んできました。

2030年SDGs目標の達成を視野に入れて、事業創出に組み込み、社会問題の解決に取り組んでいきます。

JUKI企業理念図



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



JUKIは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

開発途上国の経済発展への取り組み

工業用ミシン事業を通じて、開発途上国の産業創出と経済発展に努めています。2月19日にエチオピアにおいて「Ethiopia-Japan Garment & Textile Industry Development Seminar」に参加し、エチオピアでの縫製業発展への支援として「縫製業における品質・生産性向上の為の工場診断の重要性」というテーマについてプレゼンテーションを実施しました。



環境パフォーマンスの改善

国内・海外の当社生産拠点において、CO₂・廃棄物・揮発性有機化合物(VOCs)などの排出削減活動を通して、環境への貢献活動を継続しています。

新興重機工業有限公司では、燃焼式VOCs浄化設備を新たに導入し、中国における工業企業揮発性有機化合物排出標準量を遵守したもののづくりを行っています。



地域・社会貢献での取り組み

新型コロナウイルス感染症を防止するため、JUKIの工業用ミシン、家庭用ミシンを活用してマスクを生産、合計32,700枚を多摩市、ならびに国内7工場が所在する地方自治体へ寄贈しました。

手作りマスクは、SMLの3種類で、大田原工場の社員約50名が携わり縫製しました。



中間連結財務諸表（要旨）

中間連結貸借対照表

(百万円)

科目	前期 2019年12月31日現在	当第2四半期 2020年6月30日現在	増減
資産の部			
流動資産	80,210	95,955	15,745
固定資産	34,505	34,327	△178
資産合計	114,715	130,282	15,567
負債の部			
流動負債	54,769	66,119	11,350
固定負債	22,194	31,768	9,574
負債合計	76,963	97,888	20,925
純資産の部			
株主資本	39,966	35,332	△4,634
その他の包括利益累計額	△2,929	△3,603	△674
非支配株主持分	714	665	△49
純資産合計	37,752	32,394	△5,358
負債純資産合計	114,715	130,282	15,567

中間連結損益計算書

(百万円)

科目	前第2四半期 2019年1月1日から 2019年6月30日まで	当第2四半期 2020年1月1日から 2020年6月30日まで	増減
売上高	51,885	30,496	△21,389
売上原価	36,463	23,750	△12,713
売上総利益	15,421	6,745	△8,676
販売費及び一般管理費	12,826	10,214	△2,612
営業利益又は営業損失(△)	2,595	△3,468	△6,063
営業外収益	462	873	411
営業外費用	949	847	△102
経常利益又は経常損失(△)	2,107	△3,442	△5,549
特別利益	6	30	24
特別損失	6	223	217
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,106	△3,635	△5,741
法人税等	641	307	△334
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,465	△3,942	△5,407
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	29	△40	△69
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,436	△3,902	△5,338

会社情報 (2020年6月30日現在)

■ 会社概要

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
資本金	180億4,471万円
本社	東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1
決算期	12月
営業品目	工業用マシン／産業装置／家庭用マシン他
従業員数	5,504名(連結)
連結子会社数	25社

■ 株式の状況

- 発行可能株式総数…………… 80,000,000株
- 発行済株式総数…………… 29,874,179株
- 株主数…………… 12,568名

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1
TEL: 042-357-2211

<https://www.juki.co.jp>

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,704	5.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,637	5.48
GOVERNMENT OF NORWAY	1,127	3.77
株式会社みずほ銀行	938	3.14
日本生命保険相互会社	732	2.45

■ 所有者別株式分布状況

